

2025

10.22 (水) 12:10  
12:50

12:10-12:15

◆発表者紹介

12:15-12:40

◆プレゼン

12:40-12:50

◆質疑応答

オンライン  
(Zoom)

登録はこちら▶▶

[https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN\\_ydwrx04hTXKIJ9aUGClsvQ](https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_ydwrx04hTXKIJ9aUGClsvQ)

【技術支援】九州大学 Q-AOS

# 初期地球 32 億年前の海底環境の復元； 海底熱水活動と鉄沈殿作用



## Key Words

熱水活動

太古代

縞状鉄鉱層

黒色頁岩

清川 昌一 准教授

九州大学理学研究院 地球惑星科学部門

私は 1984 年に高知大学理学部に入学し、1987 年に卒業しました。その後、筑波大学大学院で修士課程を修了し、東京大学海洋研究所に進学して博士号を取得しました。博士論文では、西オーストラリア・ピルバラ地塊の太古代中期クリバービル層群の層序と構造発達を研究しました。日本学術振興会特別研究員を経て、アメリカ・コネチカット大学でポスドク研究を行い、その後、国立科学博物館特別研究員を務めました。2001 年から九州大学で教鞭をとり、現在は同大学准教授として活動しています。また、高知大学海洋コア総合研究センターや南アフリカ・ヨハネスブルグ大学でも客員教授を務めています。専門は野外地質学、太古代～原生代地質学、縞状鉄鉱層研究などで、2007 年には地質学会論文賞を受賞しました。

地球の歴史は、誕生から現在までを 4 つに区分できる。46～40 億年前を冥王代、40～25 億年前を太古代、25～5.4 億年前を原生代、5.4 億年前から現在を顕生代と呼ぶ。今回注目する太古代は、大陸が形成され始め、初期の生命が活動を始めた時代である。地球はマグマオーシャンから冷えながら海と大地を作り、その「冷えて固まる過程」こそが地球史といえる。太古代は火山活動や海底の熱水活動が盛んで、生物はこの環境に適応して生きていた。ここでは、西オーストラリア・ピルバラで復元された約 32 億年前の海底環境を紹介するとともに、太古代の海底を思わせる薩摩硫黄島の熱水活動と鉄沈殿作用についても紹介する。